令和４年度「学校安全総合支援事業（防災）」に係る防災教育 LHR 公開研究授業指導案

日時　　令和４年１０月１９日（水）第６時限
実施クラス　２年２組
授業者　　重岡　尚秀

1　単元名　「避難所運営ラーニング」

2　単元の目標

（1）　知識及び技能

ア　大規模な災害が発生した場合、学校などが避難所となり多様な価値観を持った多くの人が避難してくることがゲームを通してイメージできる。

イ　避難所で多くの人がともに生活することになるため、多様な価値観を互いに尊重し合うことが必要となることを理解できる。

（2）　思考力・判断力・表現力等

ア　人には様々な意見や価値観があることに気づき、多様な人々の視点に立って考え、半断する力を身につけることができる。

イ　地域の一員として、避難所運営時の課題と対処の仕方について考え、高校生にできること、すべきことについて思考することができる。

（3）　学びに向かう力・人間性等

ア　避難者の視点に立った学習を通して、日頃から防災に関心をもっておくことの重要性に気づくとともに、地域社会に貢献していこうとする態度を身につけることができる。

イ　地域の一員として、避難所運営時の課題と対処の仕方について考えることにより、自分達高校生にできること・やるべきことをとらえ、実践しようとする態度を身につけることができる。

3　指導と評価の計画（２時間）

小単元等	授業時間数	
1　避難所運営ラーニングⅠ（避難所 HUG）	１時間	２時間
2　避難所運営ラーニングⅡ（ロールプレイ）	１時間	

時間	目標	重点（観点）	学習活動 指導方法	評価規準（B 規準）	評価方法	記録
1	人には様々な意見や価値観があることに気づき、多様な人々の視点に立って避難所運営時の課題と対処の仕方について考えること。	知・思	・避難所の説明（ICT を活用） ・課題解決（HUG ゲームを活用）	人には様々な意見や価値観があることに気づき、多様な人々の視点に立って避難所運営時の課題と対処の仕方について考えることができる。	知・思 ワークシート	○
2	地域の一員として、多様な立場に立って避難所運営を考え、	思・主	・課題解決（HUG ゲ	地域の一員として、多様な価値観をふまえて避難所運	思・主 クロムブック	○

	避難所運営において、自分達高校生にできること・やるべきことを考え判断し、実践しようとする態度を身につける。		ームを活用したロールプレイ）	営について考えることで、自分達高校生にできること・やるべきことを考え判断し、実践しようとする態度を身につけることができる。		

4　授業の展開　1時間/２時間

過程	学習活動	指導上の留意点	学習活動（評価場面・評価方法）
導入 １０分	1　フラッシュバック防止を受ける。	○７月豪雨災害や熊本地震のフラッシュバックによって、体調不良・気分不良になった生徒には無理して継続せずに中断して構わないことを伝える。	
	目標（観点）：地域の一員として、避難所運営時の課題と対処の仕方について学ぶことで、避難所運営において高校生にできることを考える。		
	2　避難所について考える。 （１）最寄りの避難所の場所を確認 （２）避難所運営において高校生にできることを確認	 ○最寄りの避難所を知っているか尋ねる。 ○実際の避難所の運営は公的機関やボランティアの大人が行うが、今日と次回の２時間で高校生にできることを考え、次回は体育館で実際に模擬避難所運営をすることを伝え、見通しを持たせる。	
展開 ３５分	3　避難所運営ゲーム（HUG）に取り組ませる。 4　班ごとに避難所運営ゲーム（HUG）の振り返りをさせる。	○HUG の仕方を説明し、時間は１５分～２０分で区切り、葛藤事例を取り入れ考えさせる。 ○班は４、５人の７班編制する。 ○判断に迷った点、工夫した点などを振り返らせる。	○避難所運営ゲーム（HUG）に取り組む。 ○ワークシートに記入

	5　班ごとに振り返りを発表させる。	○各班、司会と書記を決める。 ○各班の書記は、他班の発表をメモする。	○ワークシートに記入
まとめ ５分	6　教員のまとめ（気づきを伝える）をする。 7　次時の説明を確認する。 8　Google フォームズを活用し個人で振り返りを行う。	○人には様々な意見や価値観があることに気づき、多様な人々の視点に立って避難所運営を行うことが大切であることに気づかせる。 ○次時のロールプレイを説明し、数名の生徒と一緒に実演を行う。	○Chromebook のフォームズに記入

5　授業の展開　２時間/２時間

過程	学習活動	指導上の留意点	学習活動（評価場面・評価方法）
導入 ５分	1　前時の班の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 目標（観点）：前時の学びをふまえて、地域の一員として、避難所運営について考え実践することで、自分達高校生にできること・やるべきことを考え判断し、実践しようとする態度を身につける。	○HUG に取り組んだ感想や気づきなどを共有する。	
展開 ４５分	3　模擬避難所運営のルール説明と注意事項を確認する。 4　人吉市役所防災課の方に「実際の避難所運営」に関する話をしていただく。 4　模擬避難所運営に取り組む。 ※スキャンし印刷した HUG カードの活用	○ルール説明と何か道具を使う時は、その会場の職員に尋ねる等の注意事項を伝える。 ○生徒を「避難所運営者役・高校生ボランティア役・避難者役」の三者に分ける。時間は２０分程度で区切る。 ○避難所運営の根拠を	

		考えながら、各役割でロールプレイをさせる。 〇避難所運営者役は、人吉市防災課の方に助言を受けることができる。	
	4　役割ごとに避難所運営において「工夫点と苦労点」・「助かった点と要望」・「高校生にできること」を考える。	〇個人思考でふせんに記入をさせ、書記がクラス全員で共有しているシートに記入する。シートを共有しているので、役割ごとの意見をふまえながら考察させる。 〇避難者役は人数が多いので、５人の４グループに分ける。 〇教員の Chromebook を通して、共有したシートは体育館のスクリーンにも映し出す。	〇各役割の書記が Chromebook で共有したスプレッドシートに記入 〇適宜、生徒は補足説明をする。
	5　教員が着目したいくつかの振り返りを全体で共有し、思考を深める。	〇体育館のスクリーンを通して、教員が生徒の振り返りを複数取り上げ、全体で共有・思考する。	
	6　人吉市役所防災課の方に模擬避難所運営の講評をしていただく。		
まとめ ５分	7　教員が２時間のまとめを行う。	〇下記参照	
	8　Google フォームズで２時間の授業の振り返りをさせる。	〇Chromebook を活用して振り返りをさせる。	〇ICT 活用

＜教員のまとめ＞

〇災害時には交通網が遮断される可能性がある等、住民が主となって避難所運営をする場合があり、誰でも避難者になり得るし、避難所を運営する側にもなりうることに気づかせる。

〇人には様々な意見や多様な価値観があるので、多様な人々の視点に立って避難所運営を行う必要性に気づかせ、他者を思いやり、互いの意見を尊重することの重要性に気づかせる。

〇避難所運営において高校生にできることはたくさんあるので、率先して行動する大切さに気づかせる。

〇普段使用している施設でさえ知らないこともあるので、普段から防災の観点から意識して施設を確認しておく必要性に気づかせる。